

# 家畜衛生広報



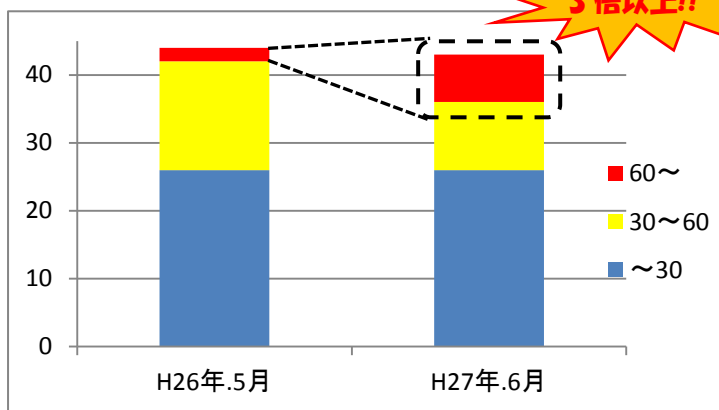
## ながの

長野家畜保健衛生所  
北信家畜畜産物衛生指導協会  
〒380-0944 長野市安茂里米村1993  
Tel 026-226-0923 Facs.026-227-2665  
E-mail: nagakachiku@pref.nagano.lg.jp

## 平成 27 年度「酪農生産性向上対策支援事業」 第一回バルク乳検査結果から

本年度で取り組み 4 年目となる管内全戸バルク乳検査ですが、第一回目(6 月)の全体結果が出ましたのでお知らせします。

### 体細胞数の推移

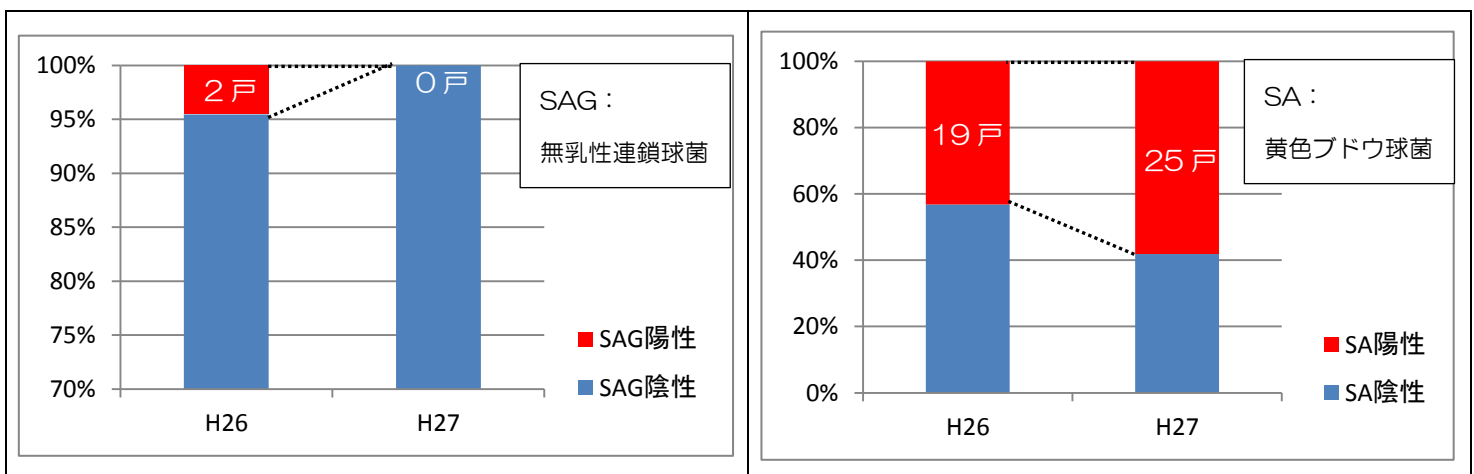


体細胞数 30 万/ml 以下の戸数は前年 5 月並みですが、細胞数の高い農家 (60 万/ml 以上) の割合が 3 倍以上に増加しています。

これからますます暑くなり、体細胞数が高くなりやすい季節になりますので、十分ご注意ください!

### 伝染性乳房炎起因菌の検出状況

SAG 陽性戸数は 0 となりましたが、SA 陽性戸数は増加傾向ですので、注意してください。



なお、全戸バルク乳検査にご協力頂いた農家につきましては、7 月 10 ~ 31 日までの期間で個別巡回を行いますので、よろしくお願ひします。

問い合わせ・連絡先 長野家畜保健衛生所 環境指導課 (担当: 山本修、徳武慎哉)

# バルク乳検査結果に基づくケース別の対応

## 1 黄色ブドウ球菌(SA)が検出された場合

牛群内に SA 感染牛がいます。菌数の多少にかかわらず対策をとりましょう。  
 全頭の細菌検査を行い、感染牛（感染分房）を特定し、搾乳順序を最後にするなどの当面の対応を行い、淘汰、乾乳期治療、経過観察などの対策を決めます。  
 なお、個体乳の検査を行っても、SA が検出されない場合があります。これは SA 感染牛であっても、排菌していない場合があるためです。体細胞数が高い牛は感染の疑いがあるので、再度検査を行います。

## 2 無乳性レンサ球菌(SAG)が検出された場合

牛群内に感染牛がいます。SAG は SA と異なり、常に排菌されるため、感染牛の特定は簡単です。体細胞の高い牛を中心に個体乳検査を行い、感染牛の治療を行います。

## 3 環境性ブドウ球菌、環境性レンサ球菌が多い場合

環境性ブドウ球菌や環境性レンサ球菌が検出されても、牛がこれらの菌に感染しているとは限りません。これらの菌は環境に由来するので、菌が多数検出された場合は、環境や搾乳衛生に問題があり、環境性乳房炎に罹る可能性が高いと考えられます。  
 牛床の汚れや乾燥状態を確認し、乳房や乳頭の汚れを少なくしましょう。また搾乳手順や搾乳方法を見直し、とくに乳頭の清拭方法をチェックしましょう。

## 4 大腸菌、耐熱性菌が多い場合

これらが多い場合は、搾乳機器の洗浄殺菌に問題があります。搾乳システムの洗浄状態やライナーゴムの劣化をチェックしましょう。大腸菌数が多く、耐熱性菌が少ない場合は、搾乳衛生の不良が考えられます。搾乳手順を再度検討しましょう。

## 5 低温細菌が多い場合

バルク乳の冷却不足やバルクタンク・ミルクラインの洗浄不足が考えられます。きちんと冷却されているかチェックしましょう。

## 正しい搾乳手順のまとめ (家畜改良事業団 HP から)

過搾乳など、誤った搾乳手順が体細胞の増加を招きます。オキシトシン効果を考慮した搾乳をおこないましょう！



**消毒は伝染病予防の第一歩**  
 まずは踏み込み消毒槽を畜舎に置きましょう

信州ACE(エース)プロジェクト  
 しゃあわせ 信州  
 action [体を動かす]  
 check [健診を受ける]  
 eat [健康に食べる]  
 世界で一番(ACE)の健康長寿を目指しましょう